

『日本俗語大辞典』に載っている若者語の特徴

一品詞別の特徴とその機能を中心に

金鎔均*・徐慶元**

kygyun@cau.ac.kr・agaru1004@hanmail.net

Contents

- I. はじめに
- II. 若者語の定義と位置付け
- III. 先行研究の検討と問題点
- IV. 分析資料と調査方法
- V. 分析結果と品詞別の考察
- VI. おわりに

I. はじめに

最近、「告白する」が「コクる」に、「とても腹が立つ」が「チョーむかつく」に取って代わるなど、若者語は日常生活に徐々に浸透している。また、2012年文化庁が発表した「国語に関する世論調査」によると、「うるうるとした瞳」「きんきんに冷えたビール」¹⁾など、多くの新しい若者語が定着しつつあるという。

このような若者語は突然現れたものではなく、いつの時代にも存在したものであるため、日本語の変化過程の中で自然に生まれる一つの産物として捉えるべきである。従って、若者語も使い心地の良い言葉は一般的な日本語として生き残り、使い心地の悪い言葉は一時の流行り言葉として消えていくのである。ところが、従来の言葉遣いから逸脱している意味不明の若者語で日本語が乱れており、

* 中央大学校 人文大学 アジア文化学部 教授、日本語学(交信著者)

** 中央大学校 博士課程、日本語学(第1著者)

1) ちなみに「うるうる」は85.1%で8割台半ば、「きんきん」は76.0%で7割台半ばの人が「聞いたことがある」と回答しており、「使ったことがある」と回答した人の割合を年齢別に見ると、30代で最も高くなっていた。

若者語の氾濫は用語力や説明力不足に繋がるとの懸念が根強く残っているのが現状である。しかも、若者語の理解に苦しむ大人も少なくないため、若者語は長い間批判的的となってきたのである。

「食べれる・見れる」のような「ラ抜き言葉」や「歌わせていただきます・読ませる」といった「サ入れ言葉」、「KY(←「空気が読めない」のローマ字表記の頭文字化)」、「MT(←「まさかの展開」のローマ字表記の頭文字化)」、「MMH(←「目を見て話さない」のローマ字表記の頭文字化)」という「KY語²⁾」などで代表されるように、今まで若者語に関する言説は主に「日本語の乱れ」「文法の破壊」のような批判的な視点から行われてきたのは否めない。また、若者語に関する諸研究は若者語の意味分析や造語法などにやや偏っており、若者語を品詞の観点から分類して品詞別の特徴を計量的に示し、その裏面に内在している若者語の機能についてまで考察した研究は管見ではさほど見当たらない。

このような偏向的先行研究の問題点と若者語に関する新たな研究方法の提案として、本稿では若者語の上位概念である俗語の中の若者語、即ち、『日本俗語大辞典』に載っている若者語を抽出し、品詞別の特徴とその機能について詳細に考察することを目的とする。本稿での考察を通じて得られた分析結果は、これからの若者語研究の新たな手法の一つとなり、単なる「日本語の乱れ」としてみなされてきた若者語を再認識するきっかけになり得ると思われる。なお、今回の分析結果は『現代用語の基礎知識』という雑誌に載っている若者語との比較・対照研究の資料としても活用されることが期待される。

II. 若者語の定義と位置付け

若者語に関する考察に先立ち、その概念と位置付けが必要であると思われる。

2) 「KY語」とは、日本語をローマ字書きにした時に、その語を句(文節)や語の最初に来るローマ字で表した語である。その代表的存在である「KY(空気が読めない)」は、2007年ユーキャンの新語・流行語大賞にエントリーされるなど、大きな注目を浴びた。その後、2008年には『KY語辞典』(白夜書房、BLOCKBUSTER+現代略語研究会著)と『KY式日本語』(大修館書店、北原保雄編著)という書籍が発行された。

従って、この章では分析対象に選定した俗語の上位概念である新語や下位概念である流行語などを通じて若者語の正確な概念を探り、その位置付けを試みることにする。まず、『国語学大辞典』では新語を下記のように定義している。

新しくその言語社会に現れた、又は、既存の事物や概念を、新しく表現するために作られ、または正当なその語の自然な語義変化とは言いがたい度を越えた新しい意義を与えられて、その存在権を社会によって承認された語。それまでそのような語形、そのような意義としてその言語社会の語彙構成要素ではなかった語が新たに出現した時、新語と称される。したがって、それより過去の話しことばにも文字資料にも見当たらない。新語の中、内容や語形の新奇さ面白さでその時の人々に好まれて口ずさまれ、文字言語にも登場するに至ったものは、特に流行語と称する。³⁾

上記の記述から、「新語」とは字義通り事物や概念を新しく表現するためにその言語社会に登場した語であると定義できる。特に、新語の中でも当時の社会に広範囲に認知されて使用される語が流行語であるという説明から、流行語は新語の下位分類に含まれると言える。

一方、流行語について米川(1989)は「その時代に適応して、きわめて感化的意味が強く、広く民衆に使用された言葉」⁴⁾であると定義しており、『日本語百科大事典』には「誇張の中に娯楽性を含んだ表現で、そのときどきの世相・風俗を風刺したり、その発音が新鮮・奇抜であったりして、人びとの耳目を引きつけ、一時期ひろく使われたり印象づけられたりしたことば」⁵⁾と記述されている。米川と『日本語百科大事典』の定義から、流行語とはある特定の時期にのみ現れて広く使用されている言葉であることが分かる。次に、俗語について米川(2003)は次のように述べている。

「俗語」とは話し言葉の中で公の場、改まった場では使えない(使いにくい)、語

3) 国語学会編(1980)『国語学大辞典』、東京堂出版、p.528(寿岳章子執筆)

4) 米川明彦(1989)『新語と流行語』、南雲堂、p.17

5) 金田一春彦外(1995)『日本語百科大事典』、大修館書店、p.534(稲垣吉彦執筆)

形・意味・用法・語源・使用者などの点が、荒い・汚い・強い・幼稚・リズムカル・卑猥・下品・俗っぽい・くだけた・侮った・おおげさ・軽い・ふざけた・誤ったなどと意識される語や言い回しを指す。多くの場合、改まった場で使う同意語またはそれに準じる表現を持っている。主な候補語に若者語・業界用語・隠語・卑語・流行語・差別語の大部分あるいは一部分がある。また一般語の口頭語形がある。⁶⁾

上記の説明から、米川は流行語と若者語を俗語の下位概念として位置付けていることが分かる。多くの流行語の使用階層が若者であり、若者が使っている若者語が流行語になる場合もあるため、両者の間には相関関係が成立する。ところが、全ての流行語が若者語とは限らず、また若者語が全て流行するとも限らない。具体的には2014年ユーキャン新語・流行語大賞にトップテン年間大賞に選定された「集団的自衛権」という言葉は、2014年当時流行った流行語であるが、若者語とは言いにくい。このことから、流行語と若者語の間には数学で言う「和集合」の関係が成立すると言える。

本稿の分析対象である若者語について永瀬(1999)は「若者の作る群れの言葉、集団語のことである。この若者の集団語における一つの機能として、その言葉を使うことによってその集団に属しているという帰属意識を高めるといふ働きである⁷⁾」と定義しており、井上(2006)は「匿名性が生み出しやすい新しい創作、限定資源からの創造、ビジュアルなコミュニケーションの遊戯性を持つ語⁸⁾」と説明している。また、小矢野(2006)は「若者が使っていて、友達との会話をよりいっそう楽しく、テンポよく進めて、連帯感を確かめたり強めたりするのに役立つ言葉⁹⁾」と述べている。このような若者語に関する様々な定義や記述から、若者語とは「若い世代が会話促進や連帯意識の高揚など、ある意図を持って意識的に使っている言葉」であると定義できる。

以上の新語、俗語、流行語、若者語の相関関係を分かりやすくベン図を用いて

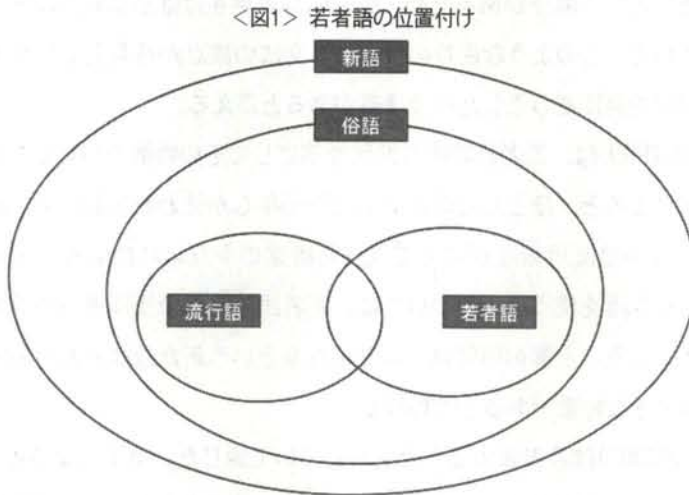
6) 米川明彦(2003)『日本俗語大辞典』、東京堂出版、p.687

7) 永瀬治郎(1999)「語の盛衰—キャンパス言葉の寿命—」『日本語学』9月号、明治書院、p.15

8) 井上逸兵(2006)「ネット社会の若者ことば」『月刊言語』3月号、大修館書店、p.60

9) 小矢野哲夫(2006)「若者語は集団語か」『日本語学』9月号、明治書院、p.16

視覚化すると、次の〈図1〉のようになる。



Ⅲ. 先行研究の検討と問題点

若者語に関する研究は様々な観点から論じられてきた。若者語に関する主な先行研究としては、若者語の定義、発生要因、機能などについて論じた米川(1994)、文法の観点から若者語を考察した佐竹(1997)、語の盛衰の観点から若者語の寿命について述べた永瀬(1999)、若者語の発生と定着について論じた桑本(2002)、若者語の言語構造について分析した窪蘭(2006)などがある。以下に各先行研究の主な内容を簡単にまとめてみることにする。

米川明彦(1994)は、若者言葉を中学生から三十歳前後の男女が仲間内で会話促進や娯楽などのために使う特有の語や言い回しであると定義し、その発生要因を歴史的・心理的・社会的要因に分けて詳細に分析した。また、若者言葉の機能としては娯楽・会話促進・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化の七つの機能があると述べた。米川の研究は、若者言葉を発生要因や機能の観点から論じたことが特徴であり、その後の若者言葉研究の礎を築いた研究であると思われる。

佐竹秀雄(1997)は、若者語における表現の特徴を文法の観点から分析した。分析の結果、若者語には自分に関することを自ら表現するより他人の視線を通じて判断されたいという願望があるため、断定的な表現をはばかり傾向があると佐竹は主張している。このような佐竹の研究は、文法の観点から若者語発生の根本的な背景や規則を見出そうとした点で意義があると言える。

永瀬治郎(1999)は、若者語の使用期間を基にしてその特徴を明らかにしようとした。永瀬によると、ほとんどの若者語は3~5年しか使われておらず、長年使われている若者語は使用頻度が高く「遊び」感覚の少ない語に限ると説明している。また、若者語を使う理由については、若者語の使用で帰属意識を高めるためであると主張した。永瀬の研究は、言葉の寿命という新たな観点から若者語を論じたことが大きな特徴であると思われる。

桑本裕二(2002)は若者語の発生と定着について論じた。桑本によると、ある若者語が発生するためにはきっかけとなる媒体が必要であるが、その媒体はテレビやラジオ、雑誌などのメディアであると主張した。また、発生した若者語が定着するための条件としては使用範囲の広さ、派生形の有無、意味の転換、曖昧な表現であることを挙げている。このような桑本の研究は、若者語の発生から定着に至るまでの過程を分析したという点が特徴であると言える。

窪蘭晴夫(2006)は若者語の言語構造について詳細に分析を行った。窪蘭によると、ほとんどの若者語は元の意味の類推ができるように単語の前部を残す短縮語と、隠語として後部を残す短縮語の二種類に分けられるという。その他、若者語の発音と意味の変化、語法の変化などについても具体例を挙げながら説明している。窪蘭の研究は、「言葉の乱れ」とみなされてきた若者語の構造を科学的に分析し、それを体系化した点に意義があると思われる。

上記のような先行研究以外にもポライトネス理論から見た若者語の機能について述べた村田(2005)、若者語の全国分布図を作成した永瀬(2006)、若者語と方言の関連性について分析した吉岡(2006)などの研究もある。このような先行研究は各々の研究成果はそれなりに認められるものの、本稿のように俗語辞典に載っている若者語を研究資料として用いて分析し、品詞別の特徴とその機能について考察した研究は管見では見当たらない。また、若者語を正確な数値で計量化し、

それを様々な観点から分析した研究もさほど多くない。そのような意味で本稿での分析結果は、既存の先行研究とは異なる意義を持っており、若者語に関する新たな研究方法の提案にもなり得ると思われる。

IV. 分析資料と調査方法

1. 分析資料

俗語の下位分類である若者語の品詞別の特徴とその機能を分析するため、本稿では米川明彦(2003)の『日本俗語大辞典』を用いて考察を進めていくことにした。分析資料の選定理由としては、『日本俗語大辞典』という辞典は比較的最近出版された辞典であり¹⁰⁾、しかも明治時代から2003年までの俗語6323語が漏れなく載っているため、信頼性が高く計量化しやすいと判断したためである。ちなみに分析の際は下記のような分類基準に従い調査を進めていった。

- 一. 『日本俗語大辞典』の見出し語に「若者語」、もしくは「若者用語」と表記されている言葉のみを分析対象とする。
- 二. 品詞分類は基本的に『日本俗語大辞典』の分類基準に従うことにする。但し、代名詞は名詞とみなし、二つ以上の品詞として使われる場合は初出した品詞に従うことにする。
- 三. 接尾詞、助詞、助動詞などの品詞はごく少数のみ登場するため、今回の調査では対象外とする。
- 四. 連語、句は原則として品詞分類には含まれないが、「～る」「～する」のように動詞として機能する場合、本稿では「動詞」とみなすことにする。
- 五. 百分率は原則として小数第2位で四捨五入することにする。但し、合計が100%

10) 他の俗語辞典としては、山中襄太著の『方言俗語語源辞典』(1970)、1917年に東京・日本橋の集文館より出版された『俗語大辞典』の復刻版である堀籠美善著の『俗語大辞典 辞典叢書(7)』(1996)、大迫秀樹・テリイ伊藤著の『消えゆく日本の俗語・流行語辞典』(2004)などがある。特に、『消えゆく日本の俗語・流行語辞典』は2004年に刊行された最も最新の辞典ではあるが、3700語の流行語が中心となっているため、本稿では『日本俗語大辞典』を分析資料に選定した。

にならない場合に限り、小数第3位から五入して計算することにする。

2. 調査方法

本稿では若者語を3段階に分けて考察を進めていった。まず、分析対象である『日本俗語大辞典』に載っている「若者語」や「若者用語」を調査し、前述した分類基準に従い品詞別に分類を行った。この際、分類した結果は品詞別分布を分かりやすくするため、表や円グラフを用いて作成してみた。次に、品詞の中でも若者語の特徴が窺える三つの品詞、即ち、名詞、動詞、形容詞を中心に考察を進め、各品詞別の特徴とその機能をまとめてみた。最後に、各品詞別の特徴を通じて明らかになった若者語の全体像を探ってみた。

V. 分析結果と品詞別の考察

1. 分析結果

『日本俗語大辞典』に載っている若者語は、俗語の合計6323語の内、14.6%に当たる928語が現れた。その928語を品詞別にあいうえお順にまとめたのが次の<表1>である。

<表1> 『日本俗語大辞典』に載っている若者語の品詞別の出現語彙(異なり語数)

品詞	出現語彙
名詞 (560語)	芸ノ一人, ゲーセン, ゲーハー, ゲーマー, 激かわ, 激似, 激ブリ, ケチャマン, げば子, げろうま, げろ男, げろぶす, げろまぶ, げろむか, 圏外, ケンタ, ケンチキ, 原ちゃ, 原ちゃり, 高校デビュー, 極うま, 午後一, コス, ごち, 小ベソツ, 牛蒡足, 小マダム, コミケ, これもん, コンサバ, コンドーさん, コンパニ, 紺ブレ, 最悪, 下げまん, させ子, 茶店, 砂漠ブス, 座布団, サボリング, サリーちゃん, 猿系, 笹ぶす, 三語族, C調, しいめ, 試運転, 鹿十, 仕切り, しけコン, 自己中, 仕事モード, しこ勉, 自己満, シーチーボーイ, 知ったか, 地味婚, じも通, ジモッティ, ジモッビー, ジモティ, しゃかしゃか, しゃかパン, 車高短, ジャニーズ系, シャネラー, 週一, 就活, 十八禁, 塾講, 醤油顔, ショッピン, ショッポ, しょぼコン, シングルベル, 素, すか, スキゾ, スケボー, スタバ, スッシー君, スッチー, ストバー, ストライクゾーン, スパモ, 素股, ずりせん, ずりまん, 寸切れ, 星人, 精神ぶす, セッタ, 窓ちゃり, 絶不調, セブイレ, セブン, 専学, 全つま, 象足,

	<p>ソース顔、ソーラー、ソーラー族、族、即去り、卒アル、ゾッキー、粗乳、ダー、ダーリン、大東亜帝国、態度L、対まん、高びー、タク、宅通、タク通、宅飲み、だ埼玉、達公、タブラン、ダブルバー、駄弁り、ダベリング、玉男、ため、ため口、ため語、ため年、トラコ唇、単転、ダンバ、ダンボ、ダンボラー、だんま、チーマー、チキン肌、ちびT、チャーリー、チャイ語、チャイドル、着メロ、着拒、茶髪、ちゃら男、ちゃり、ちゃりき、ちゃりちゃり、ちゃり通、ちゃりんこ、チューショット、中坊、チョガンブ、チョキレス、チョベリバ、ちょむか、ちょんばれ、ちょんば、ツォショット、使いつば、つくしん坊、突っ張り、冷たいの、ツンドラ、TDK、ティッシャー、デークラ、できちゃった婚、徹ゲー、徹ファミ、デバガ、デバギヤル、デバ地下、デビュー、でぶす、でぶ専、テルホ、テルモ、テレカ、テンション、天然、天バ、天パー、ドイツ語、どたキャン、ドチキン、どっちらけ、ど壺、ドメ男、なおん、なげやリング、ナチュラルぽけ、生足、ナル、ナル男、なんちゃって、軟派、ニール、二尻、西海岸、にゃんにゃん、ねーか、根暗、ノン気、ノンチッチ、パーコン、パープリン、パーベキ、ハイソ、バイリンギヤル、蠅の子、バカッブル、ばかばか、爆睡、ばくちゃり、爆乳、走り、パセリ君、ばちもん、X一、髪金、ばったもん、ばつつんばつつん、ばっと見、X二、葉っぱ、パッパラパー、花金、鼻ピ、花木、パニオン、婆、婆、婆シャツ、はまちっ子、ハマトラ、はみシャツ、はみ乳、はみパン、バラノ、バリキャリ、ばり3、破廉恥、般教、半尻、パンちち、パンビー、はんぺん、ビーサン、B専、PTA、日サロ、びちT、びちパン、ピッチ、ピニ傘、ピノキオ、百メートルぶす、百均、饜飴、ファーキ、ファッキン、ファミマ、ファミレス、プー、風太郎、服一、袋、袋、老け専、ぶす専、豚袍、打ち切れ、打っちゃけ、ぶつつん、打っ飛び、フラ語、ブラコン、ブラダー、ブラック、ふられたりや、ぶりっ子、プリン、ブルー、ブント、べしゃり、臍ピ、べた、下手びー、尻垂れ、べちゃ、へビメタ、ベル、ベルさっさ、ベル友、ベル番、BMW、ベンリー君、歩行天、ボックス、ポディコン、ホテー、ポテチ、ポリボ、ホワイトキック、乏貧、本命君、マイセン、マイブーム、前かの、前彼、マクド、まじ切れ、まじトーク、まじばな、まじ惚け、マック、マッコ、まぶ達、ママギヤル、ママちゃり、眉ラー、マヨラー、マルメン、鷹、ミスド、見せブラ、貢ぐ君、胸きゅん、メアド、めだかぶす、メッシー君、女デート、目点、メルアド、メル友、モード、モス、元かの、元彼、元鞘、やあ様、やあさん、やっちゃん、ヤニーズ、やば目、山姥、やらせ、やらはた、やりコン、やりちん、やり逃げ、やりまん、やるきなしお、やるきなしこ、やるバック、ヤンエグ、ヤンキー、ヤン車、ヤン婆、ヤンママ、ヨーグルト、吉牛、余裕、よれちん、楽勝、ラスー、ラブホ、ラブラブトーク、リーマン、漂々眉、りんば、√3、ルービ、レコーディング、連結眉毛、蓮根足、ロイホ、路ちゅう、ロッカー、ロリコン、ロン毛、ロンスカ、ロンタイ、ロンブー、わざとらまん、わし男、ワシントンクラブ、ワン切り、ワンコ、ワンバ、ワンピ、ワンレンプス</p>
<p>動詞 (133語)</p>	<p>アビる、雨る、アングる、言えてる、いかつく、意気がる、意気る、いけてる、行っちゃって、行ってる、行っとく、言わず、ウニる、江川る、FFする、オケる、お茶する、終わって、格好つける、かっ飛ぶ、カフェる、がんば、ぎってる、来てる、決める、きよどる、切れる、切れる、金妻する、食う、くれる、ゲットする、告る、こける、ごちる、コピる、ゴムする、壊れる、コンパる、しくる、時化る、しこる、事故る、試乗する、しばく、しまくる、ジャムってる、舍利る、主婦する、女子大生する、死んでる、スタンパる、滑る、ずらずら、青春する、ゼロる、タクる、黄昏る、田淵る、食べる、ちぎる、ちくる、茶一する、ちゃう、突っ張る、壺る、自摸る、つるむ、てかる、デニる、でぶる、デューダする、テンパる、どじる、ドトル、飛ぶ、トラバーユする、トラバる、トラブる、とんこする、飛んでる(・翔んでる)、入ってる、馬鹿る、ばくる、バグる、ハゲる、はじける、ばちる、ばっくれる、はっちゃける、バニクる、バニる、はぶる、はまる、腹る、パロる、引く、びちる、びびる、フィーバーする、フィーバーる、ぶうたれる、ふかす、服る、ふける、豚る、ぶちる、打</p>

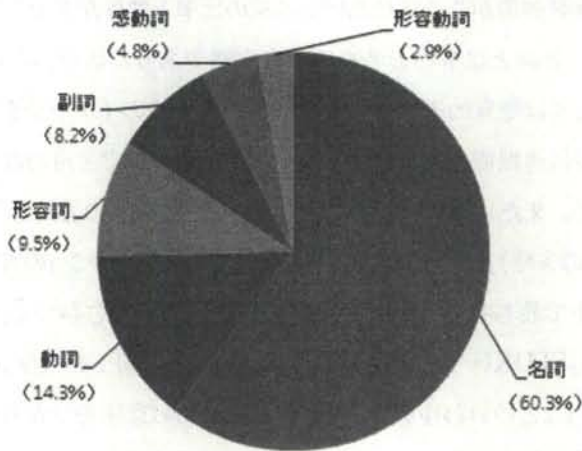
	ち千切る, ぶっちする, 打っ飛ぶ, 凹ます, 凹む, へちる, へまる, ベルサする, ベルする, ぼこる, マクろ, むかつく, むる, めげる, 飯る, 萌える, モスる, 盛り下がる, 盛り下げる, 脂る, ラーメる, 拉致る, らりる, ワーブする, 笑かす, 笑ける
形容詞 (88語)	危ない, 阿呆い, 痛い, 今い, 芋い, 芋っばい, うざい, うざったい, 薄い, うっとい, うるい, えぐい, Hくさい, エロい, おいしい, おいちい, おじんくさい, 鬼うま, 鬼かわ, 鬼恐, 鬼凄, 鬼だる, 可愛い(かあい), かつくいい, 格好いい, かつたりい, かつたるい, かつちよいい, かつちよ悪い, かつわいい, 悲ピー, 可愛い(かわいい), かわゆい, きしょい, きつづ, きもい, きゃわいい, 臭い, グロい, けばい, 濃い, ざあとらしい, さくい, ざって, さぶ一え, さぶい, 寒い, 渋い, しゃばい, しょばい, ずいま一, 凄い, すっこい, すんごい, せこい, ださい, だせえ, だっさい, だっせえ, たるい, 乳苦しい, ちゃっちい, ちゃらい, とろい, 鈍臭い, ナウい, なつい, ニューい, 恥ずい, 派手可愛, へこい, 下手巧, へちよい, へばい, まぶい, 水っばい, むずい, めんどい, めんどちい, もさい, もっさい, ものすげー, もんげー, やくい, やばい, やべえ, 弱ちい, るせえ
副詞 (76語)	あんま, いきなし, いっちゃん, 今一, 今三, 今二, 今百, うるうる, 鬼, 思いっし, かつし, がっくし, がん, がんがん, きっかし, きっちし, きっぱし, きゃびきゃび, 巨, 激, げろ, ごっくん, ごつづ, さくさく, さくっと, さっくり, さりげに, しけしけ, しこしこ, 全然, そっこ, 速攻, 速攻で, 超, 超ウルトラ, 直で, ちょっし, ちょっち, ったく, だら, ばしばし, ばっち, ばっちし, ばり, ばんばん, びしばし, びしばし, びっかびか, びったし, びったんこ, びんびん, ふち, 別に, まじで, まったり, マッパで, みっちし, 無茶, 無茶苦茶, むっちゃ, むっちゃんこ, 目一杯, めた, めちや, めちちゃんこ, めっさ, めったんこ, めっちゃ, めっちゃくちや, めっちゃんこ, 諸, 諸糞, やっぱ, やっぱし, 余裕で, ルンルン
感動詞 (44語)	あ痛あ, あちゃあ, ありごぞ, アンビリ, うっそー, うひょう, おいおい, おす, おっしゃれー, オツツー, オッハー, おっはよ, お待た, ガーン, ガチョーン, ぎえー, ぎよえー, ギョッリッヒ, くさっ, くしゅん, げろげろ, ごちそうサマンサ, 信じー, すげえ, すげえ, すんげえ, ちゃんちゃん, どっひやー, どひやー, ばいちゃ, ばいなら, バイバイキン, バイビー, はらほろひれはれー, ひよえー, ビンボン, プー, ほよ, ま, いか, むっかー, めんごめんこ, やりー, ラジャー, んちゃ
形容動詞 (27語)	アバウト, 脂ギッシュ, アンシンジラブル, 一杯一杯, 大まじ, お釜チック, 鬼変, 俺様の, かつぺチック, ぎんぎん, ださださ, ださださ, だるだる, ちんけ, で一は一, 何げに, 嘗め嘗め, 乗り乗り, はちゃめちや, 微妙, 惚け惚け, ポテトチック, まじ, メルヘンチック, ラッキー, ラッピ, ラブラブ

分析の結果、名詞(560語)や動詞(133語)など品詞による出現語彙の偏在、「コピー(←「コピー」の略「コピ」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」「ドトル(←「ドトル」の略「ドト」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」「マク(←「マクドナルド」の略「マク」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」など、ある表現の省略形に活用語尾「る」を付けて動詞化した「る言葉」、「むずい(←「むずかしい」の略「むず」に活用語尾「い」を付けて形容詞化したもの)」「めんどい(←「めんどくさい」の略「めんど」に活用語尾「い」を付けて形容詞化したもの)」のように形容詞の省略形に「い」を付けた「い言葉¹¹⁾」、「MM(←「まじ」「むかつく」のローマ字表記の頭

文字化)、「PTA(←「ピンク」「タッチ」「アクション」のローマ字表記の頭文字化)」といった、いわゆる「KY語」、「ゲーセン(←ゲームセンター)」、「ロリコン(←ロリータコンプレックス)」のような省略表現などが目立つ。

〈表1〉の結果を基にして各品詞が若者語においていかなる比率を占めているのかを分かりやすく円グラフで表すと、次の〈図1〉のようになる。

〈図1〉『日本俗語大辞典』に載っている若者語の品詞別の分布図(%)



上記の〈図1〉の分布図から分かるように、若者語を品詞別に分類した結果、名詞が60.3%で最も多く、続いて動詞(14.3%)>形容詞(9.5%)>副詞(8.2%)>感動詞(4.8%)>形容動詞(2.9%)の順であった。このような結果を念頭に置きつつ、以下では各品詞別の特徴とその機能について名詞、動詞、形容詞を中心にして考察を進めていくことにする。

11) ちなみに、米川(1999)は「い言葉」、三宅(2002)と窪園(2002)は「新形容詞」、北原(2009)はただ「「～い」の形」と命名しているが、本稿では米川(1999)の命名に従って「い言葉」と命名することにする。

2. 若者語の品詞別の機能と特徴

2.1. 名詞

『日本俗語辞典』に載っている若者語の内、560語で最も多かった名詞は、若者語の特徴をよく反映している品詞であると言える。米川(1998)は若者語の機能について娯楽的機能、会話促進機能、連帯機能、イメージ伝達機能、隠蔽機能、緩衝機能、浄化機能の七つの機能がある¹²⁾と述べた。その中でもイメージ伝達機能と隠蔽機能、連帯機能が若者語における名詞の比率と関係があると思われる。

周知の通り、名詞とは事物の名を表す自立語であり、活用がない品詞¹³⁾である。視覚的もしくは聴覚的表現を使って瞬間的な事物のイメージを伝達する機能であるイメージ伝達機能を表すには、固定したイメージで活用のない名詞が最適であると言える。また、「コミケ(←「コミックマーケット」の省略)」「スタバ(←「スターバックス」の省略)」「ファミレス(←「ファミリーレストラン」の省略)」など若者語の造語法の中で最も多い省略表現¹⁴⁾や、「MM(←「まじむかつく」のローマ字表記の頭文字化)」「TDK(←「拓殖大学・大東文化大学・国土館大学」のローマ字表記の頭文字化)」などのいわゆる「KY語」からは、元の意味を分かりにくくし、仲間同士の会話を促進させるといった隠蔽機能と連帯機能が窺える。これは前述したように、活用せずに固定したイメージである名詞という品詞ならではの特徴が言語生活に反映された結果であると言える。

次に、「赤男(←赤い洋服を着ている男)」「ちゃら男(←ちゃらちゃらしている男)」「赤丸君(←若い女性から見て、将来有望な若い男性)」「スッシー君(←女性から見て、寿司をおごってくれそうな金持ちの男性)」「アムラー(←歌手の安室奈美恵をまねている人)」「アユラー(←歌手の浜崎あゆみをまねている人)」など、特定の言葉に「～男」や「～君」、「～ラー」などを付けて新たな言葉を生成する造語法も名詞若者語の大きな特徴の一つである。

最後に、「いたずら」という語を活用して「いた電(←いたずらの電話)」「いたベル

12) 米川明彦(1998)『若者語を科学する』、明治書院、pp.19-25

13) 小学館国語辞典編集部(2004)『日本国語大辞典第二版』第十二巻、小学館、p.1081

14) 米川明彦(1995)「若者語の世界第3回「若者語の造語法(上)」」、『日本語学』1月号、明治書院、p.117

(←いたずらのベル)」「いたメール(←いたずらのメール)」のような多くの派生形が作られることから、言葉の造語力に優れている点も名詞若者語の欠かせない大きな特徴であると言える。

2.2. 動詞

合計133語で名詞に続いて最も多かった動詞は、54.1%に当たる72語が活用語尾「る」や「する」を付けて動詞化したものであった。具体的には活用語尾「る」を付けて動詞化した「る言葉」が40.6%で最も多く、「する」を付けて動詞化した若者語が13.5%、「～てる」形が9%、その他が36.9%を占めていた。これを表でまとめると、下記の〈表2〉のようになる。

〈表2〉『日本俗語大辞典』に載っている動詞若者語の分類と出現語彙

分類基準	出現語彙
「る言葉」 (54語)	アビる, 雨る, アングる, 意気る, ウニる, 江川る, オケる, カフェる, きよどる, 告る, ごちる, コビる, コンパる, しこる, 事故る, 舍利る, スタンパる, セロる, タクる, 黄昏る, 田淵る, ちくる, 壺る, 自摸る, デニる, でぶる, テンパる, どじる, ドトる, トラパる, トラブる, 馬鹿る, ばくる, バグる, ハゲる, ばちる, パニクる, パニる, 腹る, パロる, びちる, フィーパる, 服る, 豚る, ふちる, へちる, へまる, ほこる, マクる, 飯る, モスる, 脂る, ラーメる, 拉致る
「～する」形 (18語)	FFする, お茶する, 金妻する, ゲットする, ゴムする, 試乗する, 主婦する, 女子大生する, 青春する, 茶一する, デューダする, トラバーユする, とんこする, フィーバーする, ぶっちする, ベルサする, ベルする, ワープする
「～てる」形 (12語)	言えてる, いけてる, 行っちゃってる, 行ってる, 終わってる, ぎってる, 来てる, 切れてる, ジャムってる, 死んでる, 飛んでる, 入ってる
その他 (49語)	いかつく, 意気がる, 行っとく, 言わず, 格好つける, かつ飛ぶ, がんば, 決める, 切れる, 食う, くれる, こける, 壊れる, しくる, 時化する, しばく, しまくる, 滑る, ずらずら, 食べる, ちぎる, ちゃう, 突っ張る, つるむ, てかる, 飛ぶ, はじける, ぼっくれる, はっちゃける, はぶる, はまる, 引く, びびる, ふうたれる, ふかす, ふける, 打ち千切る, 打っ飛ぶ, 凹ます, 凹む, むかつく, むる, めげる, 萌える, 盛り下がる, 盛り下げる, らりる, 笑かす, 笑ける

まず、活用語尾「る」を付けて動詞化した「る言葉」はモーラや語種による偏在が目立つ。合計54語の内、77.8%に当たる42語が3モーラの「る言葉」であり、4モーラ10語(18.5%)、5モーラは「スタンパる(←「スタンバイ」の略「スタンバ」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」と「黄昏る(←「たそがれ」に活用語尾「る」を付け

て動詞化したもの)の2語(3.7%)しか現れなかった。

このようなモーラの偏在は、「る言葉」は語頭の2モーラを残すという日本語の伝統的な規則に従っていると述べた窪蘭(2006)の先行研究¹⁵⁾とも一致する結果である。また、「オケる(←「カラオケ」の略「オケ」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」「コピる(←「コピー」の略「コピ」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」など、外来語を省略した「る言葉」が多いのも大きな特徴であると言える。反面、「事故る(←「事故」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」「拉致る(←「拉致」に活用語尾「る」を付けて動詞化したもの)」のような漢語「る言葉」が少ないのは、「る言葉」の主な使用階層が若者であり、その若者が漢語の使用を敬遠して外来語を言葉遊びの道具、だじゃれの道具として好んで使う¹⁶⁾ことと関係があると思われる。要するに、若者たちは日常生活で会話を促進させたり遊び感覚で「る言葉」を好んで使っているのである。一例として外から室内に入ったばかりの人が「今、雨が降っているよ。」と言った場合、この文章からは若者語特有の娛樂的要素、面白さなどが全く感じられない。しかし、「雨が降る」という意味の「る言葉」「雨る」を使って「今、雨ってるよ。」になると、音節数が縮んで同じ意味を短時間に伝達するのが可能となり、面白さも増すという効果が生じる。このように若者はある動作を表す際、既存の動詞をそのまま使わず若者ならではの動詞化にして使っていることが分かる。

2.3. 形容詞

合計88語が現れた形容詞若者語は、「形態および発音の変化」、「い言葉」、「意味の変化」、「その他」といった四つのカテゴリーに分類することができる。それを分かりやすく表でまとめた結果が次の<表3>である。

15) 窪蘭晴夫(2006)「若者言葉の言語構造」『月刊言語』3月号、大修館書店、p.54

16) 米川明彦(1992)「新語と造語力」『日本語学』5月号、明治書院、p.51

〈表3〉『日本俗語大辞典』に載っている形容詞若者語の分類と出現語彙

分類基準	出現語彙
形態および発音の変化 (29語)	おいちい、かっくいい、かったりい、かっちょいい、かっちょ悪い、かっわいい、悲びー、かわゆい、きつつう、きやわいい、ざってえ、さぶー、さふい、しゃばい、ずいまー、すっこい、すんごい、だせえ、だっさい、だっせえ、へちよい、へばい、めんどっちい、ものすげー、もんげー、やくい、やべえ、弱っちい、るせえ
「い言葉」 (24語)	阿保い、今い、芋い、芋っばい、うっと(うし)い、うる(さ)い、うざ(った)い、エロい、きしょ(くがわる)い、きも(ちわる)い、グロい、けば(けばし)い、(わ)ざあとらしい、しょばい、(か)ったるい、ちゃらい、なつ(かし)い、ナウい、ニューい、恥ず(かし)い、まふい、むず(かし)い、めんど(う)くさい、もっさい
意味の変化 (23語)	危ない、痛い、うざったい、薄い、えぐい、おいしい、可愛い(かあいいい)、格好いい、かったるい、可愛い(かわいいい)、臭い、濃い、さくい、寒い、洗い、凄いい、せこい、ださい、とろい、鈍臭い、へこい、水っばい、やばい
その他 (12語)	Hくさい、おじんくさい、鬼うま、鬼かわ、鬼恐、鬼凄、鬼だる、乳苦しい、ちゃっちい、派手可愛、下手巧

分析の結果、形態や発音が変化した形容詞若者語が全体の33.0%に当たる29語で最も多く、その次に「い言葉」(27.3%)>意味の変化(26.1%)>その他(13.6%)の順であった。このように形態や発音が変化した形容詞が多いのは、前述した動詞若者語と同様、言語を言葉遊びの道具としてみなす若者の遊び感覚に起因する結果であると思われる。例えば、「危ない」という形容詞は「危害または損害を受けそうで気がかりだ。はらはらさせられる。危険だ。¹⁷⁾」が元の意味であるが、若者は「何をしてかすかわからないさま。変な。」という意味で使っているのである。

次に、「芋い(←名詞「芋」に活用語尾「い」を付けて形容詞化したもの)」「まふい(←名詞「まぶ」に活用語尾「い」を付けて形容詞化したもの)」「むずい(←「むずかしい」の略「むず」に活用語尾「い」を付けて形容詞化したもの)」のような「い言葉」が多いのも形容詞若者語の大きな特徴である。このような「い言葉」の発生は日本語における形容詞の少なさに起因する結果であると言える。これは下記の『日本語教育事典』(1987)や米川(1998、1999)の記述からも確認できる。

歴史的にみると、形容詞のほうが早く発達したが、早く成長が止まり、現代語では新しく作られることは非常に少ない。形容詞の語数が語彙(ごい)全体の中で占

17) 小学館国語辞典編集部(2004)『日本国語大辞典第二版』第一巻、小学館、p.490

める比率は、英語におけるadjectiveなどに比べてずっと小さい。18)

日本語は固有の形容詞が少ない。そこで若者は新たに造語をして不足を補い、かつ使用を楽しんでいる。19)

日本語固有の形容詞は少ないと言われているが、若者語には多い。若者語は人を評価することばが多いためである。しかもそれはマイナス評価語である。青年期心理で、人を批判的に見ることが多くなるからである。20)

米川(1998、1999)で指摘されているように、若者語の特徴は言葉の規範からの自由と遊びにある²¹⁾と言えるが、このような属性が言語生活にも反映され、不足している形容詞を補い、それを通じて言語生活を楽しむ目的で「言葉」が発生したと思われる。

最後に、「その他」の形容詞若者語は「鬼うま(←非常にうまい)」「鬼かわ(←非常にかわいい)」「鬼恐(←非常に恐い)」などの語彙から分かるように、「鬼」という名詞に「うまい」「かわいい」「恐い」といった形容詞を付けた後、後ろの部分を省略した複合形容詞が特徴である。このように若者たちはある名詞に形容詞を付けて既存に存在しない新たな形容詞を作り、それを実際の会話でも積極的に使っているのである。

2.4. その他の品詞

名詞、動詞、形容詞以外の品詞としては副詞が76語、感動詞44語、形容動詞が27語現れた。副詞は「むちゃ」から「無茶苦茶」「むっちゃ」「むっちゃんこ」という言葉が、「めちゃ」からは「めた」「めちゃんこ」「めっさ」「めったんこ」「めっちゃ」「めっちゃくちゃ」「めっちゃんこ」のような言葉が派生することから、名詞と同じく造語力の強い品詞であると言える。次に感動詞は「あ痛あ」「ガーン」「バイバイキン

18) 日本語教育学会編(1987)『日本語教育事典 縮刷版』、大修館書店、pp.126-127

19) 米川明彦(1998)『若者語を科学する』、明治書院、p.266

20) 米川明彦(1999)『おもしろい現代語彙』、『日本語学』1月号、明治書院、p.48

21) 米川明彦(2006)『若者ことば研究序説』、『月刊言語』3月号、大修館書店、p.20

」のように発音の便宜性のある「ア行²²⁾」の音で始まる言葉が多いが、これは「ア行」の音の特徴に起因する結果であると思われる。最後に形容動詞は「嘗め嘗め」「乗り乗り」「ラブラブ」のような反復形が多く現れたが、これは会話にリズムを付けて会話を活性化させようとする意図と関係があると思われる。

VI. おわりに

以上、『日本俗語大辞典』に載っている若者語の品詞別の特徴とその機能について名詞、動詞、形容詞といった三つの品詞を中心に詳細に考察してみた。考察を通じて明らかになったことを再度まとめると、下記ようになる。

- 一. 『日本俗語大辞典』の見出し語6323語の内、若者語は1020語で全体の16.1%を占めており、品詞別には名詞(60.3%)>動詞(14.3%)>形容詞(9.5%)>副詞(8.2%)>感動詞(4.8%)>形容動詞(2.9%)の順であった。
- 二. 名詞若者語の比率が高いのは、イメージの伝達が容易なイメージ伝達機能、省略表現や「KY語」などで言葉の意味を分かりにくくし、仲間同士にのみ通じるという隠蔽機能、連帯機能と関係があると思われる。
- 三. 動詞は「る言葉」(40.6%)>「～する」形(13.5%)>「～てる」形(9%)>その他(36.9%)の順であり、ある言葉の省略形や名詞に活用語尾「る」付けて動詞化した「る言葉」が最も多いのが特徴であると言える。また、「る言葉」の前部の語種を分析した結果、外来語を省略した「る言葉」が多かったが、これは「る言葉」の主な使用階層が若者であり、その若者が漢語の使用を敬遠して外来語を言葉遊びの道具、だじゃれの道具として好んで使うことと関係があると言える。
- 四. 形容詞若者語の場合、形態や発音が変化した形容詞が全体の33.0%で最も多く、「芋い」「まぶい」のような「い言葉」が多いのが特徴であった。これは言語を言葉遊びの道具としてみなす若者の遊び感覚に起因する結果であると思われる。

22) 窪園晴夫著の『日本語の音声』(岩波書店、1999)p.20では「あ」という音について「[a]は母音性の高い母音である。ここで、母音性と呼んでいるのは、「空気の流れがどれだけ阻害されるか」という尺度を指している。阻害の度合いが高いものを母音性が低いと呼び、その逆の状態を母音性が高いと呼んでいるのである。」と解説されている。

五. 副詞からは強い造語力を、感動詞は他の音より即座に出せる「ア行」の音で始まる言葉が多いのが特徴であった。形容動詞からは反復形の使用で会話にリズムを付けようとする意図が窺えた。

今回は分析資料を『日本俗語大辞典』に載っている若者語に限定して考察を進めてみたが、考察を通じて明らかになった若者語の特徴、即ち省略表現、「る言葉」、「い言葉」などに関する具体的な考察は今後の課題にしたい。

참고문헌

- 井上逸兵(2006)「ネット社会の若者ことば」『月刊言語』3月号、大修館書店、p.60
- 金田一春彦外(1995)『日本語百科大事典』、大修館書店、p.534(稲垣吉彦執筆)
- 窪蘭晴夫(1999)『日本語の音声』、岩波書店、p.20
- _____ (2006)「若者ことばの言語構造」『月刊言語』3月号、大修館書店、p.54
- 桑本裕二(2002)「若者ことばの発生と定着について」『秋田工業高等専門学校紀要』、秋田工業高等専門学校、pp.113-120
- 国語学会編(1980)『国語学大辞典』、東京堂出版、p.528(寿岳章子執筆)
- 小矢野哲夫(2006)「若者語は集団語か」『日本語学』9月号、明治書院、p.16
- 佐竹秀雄(1997)「若者ことばと文法」『日本語学』4月号、明治書院、pp.55-64
- 小学館国語辞典編集部(2004)『日本国語大辞典第二版』第一巻、小学館、p.490
- _____ (2004)『日本国語大辞典第二版』第十二巻、小学館、p.1081
- 日本語教育学会編(1987)『日本語教育事典・縮小版』、大修館書店、pp.126-127
- 永瀬治郎(1999)「語の盛衰—キャンパス言葉の寿命—」『日本語学』9月号、明治書院、p.15
- _____ (2006)「若者ことば全国分布図—二〇〇五年調査の意味するところ」『月刊言語』3月号、大修館書店、pp.40-49
- 村田和代(2005)「ポライトネスから見る若者ことばの機能」『竜谷大学国際センター研究年報』第14号、竜谷大学、pp.25-37
- 吉岡泰夫(2006)「方言が若者ことばを活性化する」『月刊言語』3月号、大修館書店、pp.26-32
- 米川明彦(1989)『新語と流行語』、南雲堂、p.17
- _____ (1992)「新語と造語力」『日本語学』5月号、明治書院、p.51
- _____ (1994)「若者語の世界 第2回『若者語とは』」『日本語学』12月号、明治書院、p.123-131
- _____ (1995)「若者語の世界 第3回『若者語の造語法(上)』」『日本語学』1月号、明治書院、p.117
- _____ (1999)「おもしろい現代語語彙」『日本語学』1月号、明治書院、p.48
- _____ (1998)「若者語を科学する」、明治書院、pp.19-25、p.226
- _____ (2003)『日本俗語大辞典』、東京堂出版、p.687
- _____ (2006)「若者ことば研究序説」『月刊言語』3月号、大修館書店、p.20

- ❖ 투고일 : 2015.01.06
- ❖ 심사완료일 : 2015.02.05
- ❖ 게재확정일 : 2015.02.09

Abstract

『日本俗語大辞典』に載っている若者語の特徴

一品詞別の特徴とその機能を中心に

金鎔均・徐慶元

本稿は、偏向的先行研究の問題点と若者語に関する新たな研究方法の提案として、『日本俗語大辞典』に載っている若者語を抽出し、品詞別の特徴とその機能について詳細に考察した研究である。考察を通じて次のようなことが明らかになった。

一. 『日本俗語大辞典』の見出し語6323語の内、若者語は1020語で全体の16.1%を占めており、品詞別には名詞(60.3%)>動詞(14.3%)>形容詞(9.5%)>副詞(8.2%)>感動詞(4.8%)>形容動詞(2.9%)の順であった。

二. 名詞若者語の比率が高いのは、イメージの伝達が容易なイメージ伝達機能、省略表現や「KY語」などで言葉の意味を分かりにくくし、仲間同士にのみ通じるという隠蔽機能、連帯機能と関係があると思われる。

三. 動詞は「る言葉」(40.6%)>「～する」形(13.5%)>「～てる」形(9%)>その他(36.9%)の順であり、ある言葉の省略形や名詞に活用語尾「る」付けて動詞化した「る言葉」が最も多いのが特徴であると言える。また、「る言葉」の前部の語種を分析した結果、外来語を省略した「る言葉」が多かったが、これは「る言葉」の主な使用階層が若者であり、その若者が漢語の使用を敬遠して外来語を言葉遊びの道具、だじゃれの道具として好んで使うことと関係があると言える。

四. 形容詞若者語の場合、形態や発音が変化した形容詞が全体の33.0%で最も多く、「芋い」「まぶい」のような「い言葉」が多いのが特徴であった。これは言語を言葉遊びの道具としてみならず若者の遊び感覚に起因する結果であると思われる。

五. 副詞からは強い造語力を、感動詞は他の音より即座に出せる「ア行」の音で始まる言葉が多いのが特徴であった。形容動詞からは反復形の使用で会話にリズムを付けようとする意図が窺えた。

Key Words : 俗語、若者語、品詞、特徴、機能

Abstract

The Characteristics of Words Used by the Younger Generation in Japanese Language Dictionary of Slang - with a focus on their characteristics and functions according to part of speech -

Kim, Young-gyun · Seo, Kyung-won

This research paper is a careful investigation into the characteristics and functions, according to part of speech, of the slang of the younger generation, listed in the Dictionary of Slangs of the Japanese language. This paper works as a suggestion to address the issue of bias in previous research and has discovered the following facts.

1. Of the 6323 words listed in the Dictionary of Japanese Slang, the slang of the younger generation amounts to 1020 words, accounting for 16.1%. The order in terms of highest occurrence for parts of speech was Noun > Verb > Adjective > Adverb > Exclamation > "Na-" adjective.

2. The percentage of nouns is thought to be high because of their ability to convey images, conceal information to outsiders, and form camaraderie among friends.

3. The order of the weighting in Verbs is as follows: "Ru-" Phrase > "Suru-" Phrase > Others. The main characteristics in Verbs are that the "Ru-" Phrase abbreviates certain phrases or transforms nouns by attaching "-ru" at the end of words. Another observation was that there were many "-ru" phrases that abbreviated foreign-language-based words. This seems to be related to their use as puns or plays on words.

4. As for the adjective slang of the younger generation, words that have had their pronunciation transformed comprise the largest segment. A characteristic among these words was that "-i" phrases such as "Imoi" and "Mabui" were the most common. This trend is thought to be a result of the playful nature

of the younger generation.

5. In adverbs, the ability to create new phrases was the most important factor. In exclamations, words starting with "a" were the most common. Among "Na-adjectives," the use of repetitive phrases in order to create a sense of rhythm and cadence seems to have been the intention. Finally, among the others, there were many intentionally grammatical misusages and vague or roundabout expressions.

Key Words : Slang, the Words used by the Younger Generation, Part of Speech, Characteristics, Functions